

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議（平成27年度第4回）

結果概要

日時：平成28年2月29日（月）午前10時～11時50分

場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

出席者：別紙のとおり

○報告事項

◇ 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画について（資料1）

2月15日（月）に開催した平成27年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会にて議決された第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園（以下「第3回大会」という。）の基本計画について、その概要を報告した。

【各委員の意見】

特になし。

○議題

◇ 議案第1号：第3回大会開催要項について（資料2）

第3回大会開催要項を提案。一部、内容を修正することで、原案は承認された。

【各委員の意見】

[予選審査用動画の見本]

- ・過去の予選審査用動画の中で、最も優れた画像をサンプルに掲載してほしい。演技人数の多い少ないがあるので、大きく人物が写っているものと小さく（人数が多く）写っているもののうち、手話がよく分かる2パターンのサンプルを用意してほしい。（廣田委員）

⇒ 見本画像の修正を行う。

[演技の分類]

- ・基本方針、開催要項、申込み様式（様式第4号及び第5号）で、演技の分類が一致していない。分類の内容を一致してほしい。（大杉委員・国広委員）

⇒ 申込み様式の演技の分類を修正し、演技内容の記載を整理する。

[予選審査会]

- ・予選審査会は、公開又は非公開のいずれか？（国広委員）

⇒ 第2回大会と同様、予選審査については非公開とするが、審査後に審査の様子ができるよう報道機関向けに撮影の時間を設けたいと考えている。結果発表は公開で行いたい。

[リハーサル（大会前日関係）]

- ・リハーサルの前に長時間の説明が行われたものの説明内容に漏れ等があった。大会当日にもフォローのペーパーが配られたりしたが、演技の開始に手を上げる動作が徹底されていない高校があった。第3回大会は、撮影ルールや説明事項等を整理（明記）したペーパーを配付してほしい。（藤田委員）
- ・聞こえる生徒であれば先生の（口頭の）指示でさっと動くことができるが、ろうの生徒はそうはいかず、自ずとタイムロスが生じてしまう。ろうの生徒は時間に不利があることを承知してほしい。（藤田委員）

⇒ 了解。リハーサル時にペーパーを配付するとともに、リハーサル時間の調整を検討する。

◇ 議案第2号：第3回大会予選審査及び本大会出場チーム選考実施要領について（資料3）

第3回の予選審査及びチーム選考に係る実施要領を提案。一部、内容を修正することで、原案は承認された。

【各委員の意見】

[予選審査項目]

- ・聞こえる人の審査項目として、「手話を正しく表現できているか」という観点が記載されていたが、聞こえる人が手話表現を採点するのであれば、聞こえる審査員が手話通訳士の資格を有することを条件に入れることを強く要望する。（大杉委員）



- ・手話通訳士は全国で 3,000 人程度、鳥取県内では 17 名しかおらず、審査員が手話通訳士の資格を持つことは現実的ではない。手話の正確性を審査するのはろう者の審査員のみが行う従来の方法が適当ではないかと思う。(廣田委員)
- ・聞こえる人の審査項目である「総合的な表現力」(40 点)をやめて、ろう者の審査項目である「演出力・パフォーマンス度」(40 点)に統一してはどうか?聞こえる人の審査ポイントはその部分だと思う。(藤原委員)
 - ⇒ 従来の聞こえる人の審査項目については、従来の「総合的な表現力」を廃止し、ろう者の審査項目の1つである「演出力・パフォーマンス度」と同じとすることで了承。

[失格事項]

- ・「差別的表現」は失格とされている。理解はできるが、表現者や受け取る側の立場等に捉え方が変わり、判断が難しい。(大杉委員)
- ・失格の判断は、演技が全て終わってから行ってほしい。また、失格に係る審査員の意見が一致しない場合は失格とするのか。(廣田委員)
 - ⇒ 全体の演技が終了してからから議論をしていただいて、審査員に判断していただきたいと思っている。また、条件付きで合格とすることも、審査員に判断していただきたい。

☆ 議案第 3 号：第 3 回大会の来場者の入場方法（資料 4）

来場者の入場方法について、自由入場方式とするのか、事前申込み方式とするのか議論し、第 2 回大会同様、自由入場方式を採用することを決定した。

- ・県外からわざわざ見にこられた出場チーム関係者やろうあ者が見ることができずに帰ってしまったという話を聞いたが、そのようなことを踏まえると、会場（大ホール）は事前申込み方式とし、アトリウムは自由入場方式とする折衷案にして、なるべく多くの人に確実に観覧してもらうようなやり方かどうか? (国広委員)
- ・3 回目も入場できないということになると、大会への興味がなくなってしまうことを危惧する。行きたい人が確実に入場できるよう事前申込み方式にしてほしい。仮に自由入場方式としたとしても、一部、事前申込みによる指定席を採用してはどうか? (田中委員)
- ・会場が大きくなり、サテライト会場でも多くの人が観覧できるのであれば、自由入場方式の方がよい。例えば、午前中だけ見たい人に指定席を与えると、午後は無駄になってしまう。空いた席に順次座ってもらう方がいいと思う。(小椋委員)
- ・自分の経験上、事前申込み方式としても、当日、入場しようと来場される人は必ずいる。事前申込みが必要だと説明してもそんなことは知らなかったと言って、たいていトラブルになる。関係者席をなるべく減らし、一般席をできるだけ増やして、自由に来場してもらう方がいいと思う。(杉本委員)
- ・自由席の席数について情報発信を行うとともに、十分な環境が整ったサテライト会場を用意することが条件であれば、自由入場方式に賛成する。サテライト会場に 200 インチの大きなスクリーンがあれば、むしろ、字幕も見やすいし、サテライト会場の方がいいという考えも出てくるのではないか (大杉委員)
- ・サテライト会場がしっかり用意されるのであれば、申込みの手間も不要なので、自由入場方式でいいと思う (森原委員)
- ・大会OBやOGが後輩の演技を見に来るようなこともあるし、学校の授業で社会見学に来るような可能性もある。関係するチームの演技だけを見たい場合もあるので、自由に入場できる方がいいと思う。(廣田委員)
 - ⇒ 自由入場方式、事前申込み方式のいずれかを採用するかは意見が分かれたが、最終的に意見の多かった自由入場方式を採用することが決定した。

○その他

☆ 今後の日程について（資料 3）

今後の日程について、事務局から説明。

【各委員の意見】

特になし。



- ◇ 予算の執行状況について（資料4）
予算の執行状況について、事務局から説明。

【各委員の意見】

特になし。

◇ その他意見

- ・大会のテーマカラーは？（大杉委員）
⇒ 第2回大会は大会の格調を高めたいとワインレッド（エンジ色）を採用したが、第3回大会は特に決まっていない。
- ・中部地区の宿泊施設の状況は？（大杉委員）
⇒ 鳥取県の東部地区や西部地区に比べると少ないが、旅行会社の協力を受けて、出場チームの宿泊先は確保できるよう進めている。
- ・ゲストは決まっているのか？（廣田委員）
⇒ ゲストや司会を含めて、まだ決まっていない。全日本ろうあ連盟の協力をいただきながら、人選を進めていきたいと考えている。次回の会議といわず、なるべく早いうちに委員の皆様へ人選についてご相談したい。

